宮の森中だより

札幌市立宮の森中学校
第　１１　号（380号）
令和７年３月14日発行

HPはこちら

第３９回卒業証書授与式　式辞

校長　井上　博文

今週に入り、日に日に暖かな陽射しが眩しく感じられます。この宮の森の地にも、ようやく春が訪れました。本日、このように第３９回卒業証書授与式を行うことが出来、心より感謝するとともに本当に嬉しく思います。新たな希望を胸に、この宮の森中学校から未来に向かって歩みだす卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

振り返れば、皆さんが宮中へ入学した３年前は、まだコロナ禍の真只中でした。もしかすると皆さんは、最もコロナ禍の影響を受けた学年の一つだったのかもしれません。なぜなら、中学校入学前、小学校高学年で経験するはずだった多くの大切な学びの機会が、臨時休業や自粛で次々と中止や変更となってしまったのですから。ちょうどその２年間、実は私も小学校の校長を務めていたので、その苦しさは人一倍分かるつもりです。

そして３年前、宮中入学後も、コロナ禍による様々な制限はしばらく続いていました。あの時、皆さんのような子どもたちに、本当にあのような方法しかとることができなかったのか。やむを得ないこととはいえ、私は今でも考えることがあります。この国の大人の一人として、とても申し訳なく思い、決して忘れてはならないという思いを抱えています。

その後、少しずつ制限が緩和される中での皆さんはとても明るく真っ直ぐで、成長することにとても貪欲でした。特に三年生としてのこの一年は、一、二年生のまさにお手本として、宮中の新たな伝統を創り上げました。まるで、雪解け後に成長する麦のように。きっと誰一人冬の時間に負けることなく、力を蓄えていたのだろうと思います。

そして今、ここから見える皆さんの表情は、凛としてたくましく、自信に満ち溢れています。私はそれが何より嬉しく、そして心から誇りに思います。そんな皆さんの努力に応えたい一心で、この一年宮中ではさらにアップデートされた教育活動を、皆さんとともに進めてきました。

初めての関東方面への修学旅行。異学年交流を取り入れた陸上競技会。前後期の教科実践発表会や、秋の小学六年生との交流。社会課題の解決をテーマとした総合での探究的な学び。そして、生徒会活動の集大成ともいえる文化祭。自分たちで考え、仲間と対話を重ね創り上げた取組は、どれも最高の出来栄えで、その姿はまさに下級生の憧れでした。間違いなくこの一年、皆さんは宮中の希望そのものだったのです。

将来、進学し社会に出ても、寒さの中で耐え忍ぶような時間は、またやってくることでしょう。残念ながら、差別や格差、分断などの社会課題は、依然として深刻です。また、世界の各地では、紛争や自然災害などで、今この瞬間も命を落とし、傷ついている人たちがいます。このような社会を変えていくことができるのは、きっと皆さんのような若い世代だと思います。「誰かにやってもらうのを待つ」のではなく、自ら仲間と繋がり、挑戦し続けてほしい。この３年間の皆さんのように。いつの日か皆さんの人生が、麦のように黄金色の穂をたらし、大きく実るよう心から願っています。

結びとなりましたが、保護者の皆様、本日のお子様のご卒業本当におめでとうございます。きっと、ここまで育つ間には、言葉には表せないご苦労があったことと推察いたします。大人にも、きっと我慢の時期があったことでしょう。今、まさに巣立つこの卒業生は、保護者の皆様のご苦労、辛さが分かるほどに成長しました。３年間学校を支え、子どもたちを励まし続けてくださったことに、改めて御礼申し上げます。微力ながら、特にこの一年本校職員も、真摯に子どもたちに向き合って参りました。これも、私の誇りの一つです。子どもたちの人生はときに平坦ではないかもしれませんが、未来に向けて、よき仲間に恵まれ歩み続けることを、本日ご多忙の中ご臨席いただきました御来賓の皆様、地域の方々とともに、私たちもいつまでも見守り、応援しております。

卒業生の皆さん、皆さんとともに過ごした学校生活は本当に幸せでした。心から感謝しています。

お別れのことば

卒業生代表

冬を惜しむようにまだ寒さが残りつつも、春の訪れを感じられる季節になりました。本日は私たち卒業生のためにこのような心温まる式を開いて頂き、ありがとうございます。また、校長先生をはじめとする先生方、ご来賓の皆様、保護者の皆様にもご臨席賜り、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

新しい生活への期待と不安を胸に宮の森中学校の門をくぐったあの日から３年の月日が経過しました。何もかもが初めてだった一年生。部活動や生徒主体の生徒会活動、教科担任制の授業など、初めてのことに戸惑いながらも少しずつ「小学生」から「中学生」へと成長することができました。６月の校外学習では班員と札幌市内を周り、仲間との絆を深めることができました。最後に円山公園で、笑顔で踊ったフォークダンスも良い思い出です。

入学してきた後輩たちが「先輩」と呼ぶ声に、少しずつ先輩としての自覚が芽生え始めた二年生。支えられるだけではなく、先輩として主体的に動く機会も増えました。宿泊学習では迷子になりそうになりながらも、協力して小樽の街で自主研修を行い、インタビュー活動などにも励みました。

学校のリーダーとなった三年生。最高学年として、コロナ禍で途絶えてしまった宮中の伝統を紡ぎ直し、これまでよりもよい行事や活動を作り上げることができました。修学旅行では、横浜・鎌倉で８時間もの間自主研修を行い、最高の思い出を作りました。集合時間に遅れてみんなでホテルまで全力疾走したことや、時間をかけて立てた計画が予定通りに進まなかったことも大切な思い出です。

私たちの３年間は、いつもたくさんの方々に支えられていました。いつもそばで寄り添ってくださった先生方。毎日楽しくわかりやすい授業をしてくださいました。私達が悩んだり、困ったりしていたとき、先生方はいつも私たちの味方で、親身に相談に乗ってくださいました。また、職員の皆様はいつも私たちの学習環境を整えてくださり、行事や休み時間の際には笑顔で声をかけてくださいました。３年間、本当にありがとうございました。

在校生のみなさん。いつも私達三年生のことを慕って頼ってくれてありがとうございました。これから、この宮の森中学校を支えていくのは皆さんです。３年間は本当にあっという間に過ぎていきます。皆さんが中学校生活を終えるとき、この3年間が本当に楽しかったと思えるように、一日一日を大切に過ごしてほしいです。

そしてどんな時でもそばで支えてくれた保護者の皆さん。１５年間ありがとうございました。大人になっていく私たちをどうかこれからも一番近くで見守ってください。

最後に三年生のみんな。３年間本当にありがとう。いつも元気で明るいみんなと一緒に３年間を過ごすことができて本当に幸せでした。一緒に学校生活を送り、様々な行事や少しくだらないことでも全力で楽しみ、一生忘れることのできない思い出をたくさん作った日々も今日で終わりだと思うと本当に寂しいです。みんなで過ごした時間を糧として、それぞれの道へと進んでいきましょう。

今日から私たちは３年間を過ごした宮の森中学校を離れ、それぞれがそれぞれの思い描く未来に向けて新しいスタートを切ります。これまでの十五年間支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、３年間の思い出を胸に、邁進していきます。

結びとなりますが、わたしたちのこれまでの１５年間、宮の森中学校で過ごした最高の３年間を支えてくださったすべての方々に厚く感謝を申し上げるとともに、宮の森中学校の更なる発展を卒業生一同お祈りして、お別れの言葉とさせていただきます。

お祝いのことば

在校生代表

教室の窓から差し込む日差しにも春の訪れを感じることができる季節となりました。第３９期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、お祝いのお言葉を送ります。

私は、２年前、道外の小学校を卒業し、この宮の森中学校に入学しました。知り合いもいない中学校生活に、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな私を先輩方は温かい笑顔で包みこんでくれました。部活動見学の際には、たくさんの先輩方が目線を合わせ、優しく丁寧に「この部活入ってみない？」「これはこうするんだよ」など話しかけてくれました。そのおかげで不安な気持ちが和らぎ、深い安堵感に包まれたこと、中学校生活への期待が大きく膨らんだことを鮮明に覚えています。

授業で思い出に残っている科目はなんですか？授業には、いつも真剣に取り組んでいたことと思います。教科実践発表会の総合の異学年交流や、国語のビブリオバトルでは、毎回圧倒されるようなものばかりでとても刺激を受けていました。陸上競技会のレクリエーションでは、学級や学年、縦割りクラスの仲間に大きな声援を送っていました。率先して場を盛り上げ、温かい眼差しで応援してくれる３年生の存在がなによりも頼もしく憧れであり、これからの目標です。生徒会活動最大の行事である文化祭は、開閉祭式部門のダイナミックなダンスや手作りの白雪姫の衣装や展示など、細部までこだわった発表、そして何より全力で楽しみ、全力で場を盛り上げ、３年生全体で発表を作り上げていく姿を忘れることができません。

先輩方は、「何事にも真剣に、そして楽しんで取り組むこと」や「団結することの大切さ」などを、言葉だけではなくその後ろ姿で私たちに教えてくださいました。その思いをしっかりと受け継ぎます。そして、４月に入学する新たな仲間とともに、先輩方がいつまでも誇れる宮の森中学校を創っていきます。

これから、先輩方は自分の夢に向かって一人一人が選んだ道を歩んでいきます。進む道は決して楽な道ばかりではなく、時には迷ったり、つまずいたり、道が見えなくなることがあるかもしれません。でも何事にも一生懸命にひたむきに取り組み、仲間を大切にする先輩方ならどこに行っても大丈夫です。近くで先輩方を見てきた私はそう信じて、応援しています。先輩方も自分を信じて、どんなことも乗り越えていってください。

結びになりますが、卒業生の皆様のご健康と益々のご発展を心からお祈りし、お別れの言葉とさせ

ていただきます。第３９期生の皆さん、本当に今までありがとうございました。ご卒業おめでとうございます。

PTA会長　祝辞

PTA会長

皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

まずは、保護者の皆様。同じ地域で、同じ時間に助け合い、楽しく子育てができたこと。幸せでした。あんなに近くにいた我が子が、成長とともに、少しずつ離れていく寂しさ。価値観も常識さえも、急激に変化しつつある中で、正解のない「子育て」。皆さんの存在はとても心強く、安心することができました。

そして何よりも、先生。子どもたちに愛情を注ぎ、ここまで逞しく、自信に満ちた心に育ててくださったこと。心より感謝申し上げます。

また、日頃から子どもたちを温かく見守ってくださるご来賓の皆様。晴れの舞台に、多数ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、改めまして。ここ宮の森中学校に大きな足跡を残してくれた、愛すべき卒業生の皆さんへ。これまでに、のべ4875名がこの体育館から巣立っていきました。私もそのひとり。“勝手に”卒業生を代表して、ここに祝福と感謝を申し上げます。

恵の森に抱かれ毅然と建てるこの学舎は、当時のまま。ここで、人生の支えとなる、たくさんの経験ができました。当時、わたしは、強豪バスケットボール部に入部しました。バスケ部にいるだけで、自分は強くてかっこいいと勘違いしてしまうほど、先輩たちは強く輝いていました。そんな先輩に近付くべく。１・2年の時、小別沢トンネルまでのキツいランニング。でも、その途中、落ちていた漫画をこっそり読んでは、サボっていました。

そんなわけで、わたしの代は、中体連の中央区予選で敗退。先輩たちが作り上げた栄光の歴史に泥を塗ってしまいました。ただ、バスケットはその後も、ちゃっかり続けました。バスケットを通じて、たくさんの人と出会えました。実は、、、そのうちの１人が妻です。

勉強は、がんばりました。社会が得意でした。あれは中２の夏。歴史の授業でした。第二次世界大戦と低い声で格好良く答えようとしたときでした。声が大きく裏返りました。それから数日の間「第二次世界大戦」というあだ名で呼ばれました。そんなわけで、戦争は大反対です。みなさん、戦争のない平和な世界をつくってください。

恋愛は、、、あえて我慢しました。今思い返すと、特に優等生でもなく、そこまで目立つ生徒でもなく。弱かったし、上手じゃなかったし、実はモテなかったんじゃないのか説もあります。でも、思い出すと楽しくて幸せなのです。自分が、人生という物語の主人公です。少しくらい苦労や、笑えるエピソードがあった方がその物語は面白いです。

皆さんも、ひとりひとりが主人公です！これからもたくさんの経験をして、素晴らしい物語を作ってください。そして、皆さんの物語で、１人でも多くの人を幸せにしてください。

今日で、さよならだけど、さよならじゃない。友と、これからも、たくさん話をしてください。夢や悩みを語り合ってください。みなさんは、同じ空の下でいつもつながっています。

ご卒業おめでとうございます。これからの素晴らしい未来に幸あれ！共に歩まん宮の森。